

頭蓋底腫瘍における内分泌内科の役割

頭蓋底(ずがいてい)や鼻副鼻腔の領域には、さまざまな種類の腫瘍が発生します。この部位には、視床下部一下垂体という、全身のホルモンバランスを調整する「司令塔」が存在しています。

私たちの体では、多くのホルモンが血液を通して全身を巡り、体温・血圧・代謝・成長・生殖機能などを一定に保つ重要な役割を担っています。

その中枢である視床下部一下垂体が、腫瘍そのものや手術・放射線治療の影響を受けると、ホルモンの分泌が低下したり、逆に過剰になったりすることがあります。これにより、全身にさまざまな症状が現れることがあります。

下垂体ホルモンと全身への影響

下垂体から分泌される主なホルモンには、以下のものがあります。

- 成長ホルモン(GH)
- 副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)
- 甲状腺刺激ホルモン(TSH)
- 性腺刺激ホルモン(LH・FSH)
- 乳汁分泌ホルモン(PRL)
- 抗利尿ホルモン(ADH)

たとえば、成長ホルモンを過剰に分泌する腫瘍では「先端巨大症」を引き起こし、顔貌や手足の変化だけでなく、高血圧・高血糖・心血管疾患リスクの上昇など、全身に影響を及ぼします。

一方で、手術や放射線治療の後にホルモン分泌が低下すると、強い倦怠感や体重変化、血圧低下などが起こることがあります。これらは適切な診断とホルモン補充療法によって改善が期待できます。

当センターの内分泌サポート体制

当院頭蓋底センターでは、脳神経外科・耳鼻咽喉科・放射線科などと密接に連携し、糖尿病・内分泌・栄養内科の専門医が一貫してサポートします。

- 手術前のホルモン機能評価
- ホルモン過剰症の内科的コントロール
- 手術・放射線治療後のホルモン低下の早期発見
- 必要に応じた適切なホルモン補充療法
- 長期フォローアップによる QOL 維持

を包括的に行っています。

多職種連携による安心の医療

頭蓋底腫瘍は、単に「腫瘍を取り除く」だけでなく、全身のホルモンバランスを守ることが非常に重要な疾患群です。

当センターでは、複数診療科が緊密に連携し、腫瘍の治療と同時に全身状態の管理までをトータルに支える体制を整えています。

患者さんが安心して治療を受けられること、そして治療後も良好な生活の質(QOL)を保てることを目標としています。